



秋田県 秋田中央遊技業協同組合
『ホールと一体となった』社会貢献事業



秋田中央遊技業協同組合 理事長
新井弘泰さん

地域から信頼される
遊技業を目指して活動を展開

全ホールが一体となって母子生活支援施設慰問
秋田市にある秋田中央遊技業協同組合では、「ホール参加型の社会貢献」をモットーに、さまざまな活動を展開している。そのひとつが、2006年から継続して実施している母子生活支援施設の慰問活動である。

母子生活支援施設とは、18歳未満の子どもを養育している母子家庭、また何らかの事情で離婚の届け出ができない、あるいはドメスティックバイオレンスの被害に苦しむ女性など母子家庭に準ずる家庭の女性が子どもと一緒に利用できる施設で、子育て支援を進めながら母子の生活と自立を支援している施設である。現在、全国に259ヵ所の母子生活支援施設があり(2009年度厚生労働省「社会福祉施設等調査報告」)、秋田市内には4施設あるが、企業や一般などからの援助も少なく、どこも運営が厳しいのが実情である。

そのため、秋田中央遊協では、傘下の全32ホールが参加して母子生活支援施設に対する支援活動に取り組むことを決定し、2006年に慰問活動を開始した。各ホールから食料品、調味料、生活用品、図書カードなどを提供してもらい、それを12月に4施設にプレゼント(1施設あたり10万円以上)するとともに、大道芸人によるミニお楽しみ会を開催している。入所している母親や子どもたちには大好評で、毎年、施設から、「来年も、ぜひお願いします」という強い要請があるという。その声に、贈呈式に参加したホール代表者からは、「やってよかった」という声が寄せられるという。ボランティアは、される側よりもする側のほうがより感動するといわれているが、まさにその例だろう。

悲しい事故を二度と起こさせないために

また、2009年から組合をあげて取り組んでいるのが、子どもの車内放置事故撲滅キャンペーンである。そのきっかけとなったのは、2009年8月に秋田県由利本荘



母子生活支援施設へプレゼントした品々



街頭でチラシとボールペンのセットを配布する組合員



年末特別警戒活動出発式

市のホール駐車場で車内に残された乳児が死亡した事故。その再発防止をめざし、昨年は、7月3日にJR秋田駅前キャンペーンを実施した。

組合に加盟する全ホールから責任者やスタッフが参加。青いベストを身につけ、買い物客らに「やめて! こどもの車内放置」と書かれた手づくりのチラシとボールペンのセット2,000セットを配布して、事故防止をアピールした。それと同時に、キャンペーンの一環として、各ホールでは駐車場の巡回の強化、啓発ポスターやのぼりの設置、館内放送での呼びかけなど、事故根絶に向けた活動を徹底して行った。

このほかにも、秋田中央遊協ではさまざまな社会貢献活動、地域貢献活動を継続的に実施している。全てを紹

介しきれないが、たとえば、少年保護育成事業(中学生弁論大会援助:94年から継続)、社会を明るくする運動(保護司会援助:98年から継続)、年末特別警戒活動(特別警戒活動参加:01年から継続)、犯罪被害者支援活動(被害者支援センター援助:03年から継続)、暴力団追放運動(暴力団壊滅県民会議援助:04年から継続)、緑の募金運動(緑化推進委員会援助:04年から継続)などが主なものである。

こうした活動は、まさに、遊技業が地域と共生していくために欠かせないものの一つである。それを組合傘下の全ホールが一体となって取り組むことで、より効果が上がることは間違いない。地域から愛されるホールとして、今後とも、積極的な取り組みが期待される。